

秀賞

過去の私たち

福島県須賀川市立第二中学校

2年 鈴木 優芽

「世界中の人々の役に立っているという誇りを持って働いている」

この言葉は、父が勤める会社のオープンオフィスというイベントに参加した際、社員の方が仰っていた言葉であり、私がこの会社で働きたいと強く思うきっかけになった言葉である。

「お母さんにありがとうって言われると嬉しい」と感じていた7歳の私の想いは、時を経るにつれ、「誰かにありがとうって言われると嬉しい」へ変わり、10歳になる頃には「誰かの役に立ちたい」、12歳になる頃には「多くの人々の役に立つ仕事に就きたい」へと変わっていった。ただ、具体的な職業までは思い浮かんではいなかった。

ある時、小学6年生の私は、自学で父の勤める会社について調べ、ノートにまとめた。それは初め特に意味はなく、何の自学にしようか考えあぐねていた時、たまたま在宅勤務だった父が目の前で仕事をしていたから、というだけの理由だった。しかし調べていくうちに、私はどんどんその会社に関心されていった。想いを実現できる会社なのかもしれない、と思えたのだ。

その会社は医療用製品を製造販売する会社で、消化器内視鏡においては世界シェア約7割を誇っている。

父と同じ会社に就職できたらいいな、と思い始めてから2年、中学2年生の私に、父が見せたのは1枚のカラフルなチラシ。それは、夏休み中に開催されるオープンオフィスというイベントの案内だった。普段は入れない社内に入れるだけでなく、さまざまな職場を見て回ることができる上、各部署にて担当の方がその部署はどのような仕事をしている所であることを説明してくださるのだという。父に行くかと聞かれるよりも早く「行きたい。」と言った私に、父は笑って「分かった。」と答えた。

オープンオフィス前日から、そわそわと落ち着かなかった私の心は、当日、職場見学が始まると同時にさらなる高鳴りを示した。

父の所属する製品開発という部署は父から聞いたことがあったが、他にも内視鏡を修理する部署や、部品の買い付けを行う部署、カプセル内視鏡という飲み込むタイプの内視鏡を扱っている部署などもあった。女性の社員の方も多く、ほぼ女性だけの部署もあった。産休や育休などの制度も充実し、女性が働きやすい職場とのことだったので、より好印象を抱いた。各部署で説明してくださ

る社員の方々は皆、生き生きとした表情で仕事内容を教えてくださった。その中で、私が感銘を受け、文頭にも登場したあの言葉を聞くこととなる。

「世界中の人々の役に立っているという誇りを持って働いている」

この言葉は、この会社に就職できたらいいな、と思っていた私を、この会社で働きたいと、強く思う私へと変えた。13歳の夏。想いを実現できる会社なのだと確信し、就職することを目標と決めた夏となった。

7歳の私が抱いた想いは、6年の時を経て、これからの8年を支える大きな目標となったのだ。

高校生の私、受験生の私、大学生の私、就職活動中の私に、過去の私を覚えておいてほしい。

母からの「ありがとう」が嬉しい7歳の私。誰かの役に立つことを願う10歳の私。多くの人々の役に立つ仕事に就きたい12歳の私。父と同じ会社で働きたいと強く思う13歳の私。思うきっかけとなったオープンオフィスでの言葉。

未来の私が挫けそうな時、これらはきっとあの時と同じ胸の高鳴りを私に思い出させてくれるだろう。そして目標が達成されてもされなくても、30年後、40年後までも私の心に寄り添い続けてくれるだろう。どんな結果になるにせよ、子どもの私が抱いた想いはどれも尊い。私はいつでも一人じゃない。どこにいても心細くはない。全ての過去の私が、味方としてずっとそばにいたのだ。そして未来の私が、過去の私たちにこう言ってくれるのを願っている。

「世界中の人々の役に立っているという誇りを持って働いている」と。